

- 対象 ・情報処理科 3年生のうちWebアプリケーション開発演習コース選択者
- 支援企業 ・株式会社プロビズモ ・株式会社島根情報処理センター ・株式会社日本ハイソフト
- 支援内容 ・IT人材を育成するためのカリキュラム構築についてのアドバイス  
・Webアプリケーション開発演習の各チームのメンター役および開発支援
- 基本方針 ・社会や学校が抱える問題に対してITを活用して解決するための能力を身につける  
・プログラミング言語を使った問題解決に主体的に取り組む力を身につける  
・社会人として必要な他者とのコミュニケーションスキルを身につける
- 目指す人物像 ・地元企業でITスキルを核として活躍できる人材の育成

Webアプリケーション開発を実施するために、Ruby on Railsの取り扱いについて学びました。Webアプリケーションの特性を理解し、身近な課題を見つけて、ITで解決する方法を検討しました。

Webアプリケーション開発演習ではチームで役割を分担し開発を行いました。その際に支援企業3社のエンジニアがチームのメンターとなり、開発における様々なアドバイスを行いました。

#### 《開発したWebアプリケーション》

- Aチーム 図書管理システム「LibraLeration」
- Bチーム 健康観察簿システム「HOL Health Observation List」
- Cチーム 鍵管理システム「SKMS School Key Management System」
- Dチーム レシピ検索システム「LHC ～Let's Help Cook～」
- Eチーム 学生マッチングアプリ「ENC ～集え出雲の高校生～」
- Fチーム 資格取得支援システム「STST Student To student Train」



開発演習で作成したWebアプリケーションは、2月に「成果発表会」を実施して、1,2年生、教育委員会、島根県商工労働部、企業関係者等に幅広く公開しました。

発表会ではプレゼンテーションの他にWebアプリケーションを実際に操作できる時間を設けて、作成したWebアプリケーションを体験してもらうことで理解を深めて頂きました。

発表会に参加する1, 2年生には、3年次に経験するWebアプリケーション開発演習のイメージを深めてもらうとともに、3年生が作成したWebアプリケーションに対してのレビュー、評価も行いました。



学校内の身近な課題に着目したWebアプリケーションは使っている姿をイメージしやすく、実際に利用したいといった高い評価を頂くことができました。